

青雲

23号 2021.3

発行人／一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会

「青雲」

—— 題 字 ——

元島根県知事 澄田信義 氏



『進化』

出雲ドームは古代最大の木造建築・出雲大社を有する出雲市に、日本の伝統文化である木造建築をいかに現在の大空間構造として蘇えらせるかというコンセプトで設計されたといわれています。木造建築の技術が古代から名もなき職人や技術者の手を通して、脈々と受け継がれ、そして「進化」を続けています。

我々青年部会も先輩から受け継いだ今の最高を、青年らしい行動と自らの力で「進化」させ、それを後輩に繋いでいけるよう、精一杯努力をしてみたいと思います。

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会 総務広報委員会

青雲

23 MAR. 2021 VOL.23
CONTENTS

【巻頭言】

1 未来のその先に

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 部会長 森山 竜人

【次世代建設就業者育成事業】

3 次世代建設就業者育成事業の背景と目的／現場見学会・意見交換会の概要

4 湖陵多伎道路 多伎IC改良第3工事

5 斐伊川放水路事業説明／建設機械搭乗体験

6 意見交換会

7 テレビ放送・新聞記事掲載

8 工事現場見学会・意見交換会に参加して

12 しまね建設産業イメージアップ女子会

13 アンケート結果

15 次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を実施して感じること(考察)

経営研究委員会 委員長 柳樂則昭

16 出雲農林高校(環境科学科)中学生一日体験入学支援事業に参加して

経営研究委員会 副委員長 中筋元尚

【令和2年度事業報告】

17 第21回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦 地域貢献委員会 委員 菖蒲 修

18 意見交換会2020 会員交流委員会 委員 務中直也

19 卒業にあたり (株)今岡興産 日野 肇

20 新入会員紹介 今岡工業(株) 神田泰弘

(株)トガノ建設 嘉藤雅士

山口建設(株) 山口匡史

(株)フクダ 務中直也

22 編集後記 総務広報委員会 委員 江角洋介

未来のその先に

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会

部会長 森山 竜 人



この文筆を執っている今、政府による首都圏への緊急事態宣言の再発令について報道されているところです。元号が平成から令和と改元され、早一年半が過ぎました。

令和2年となって新型コロナウイルスが世間の話題を賑わせ、報道のない日はありませんでした。そして、今も終息が見えない中で世界中の人々は見えない明日に不安を抱く日々を送っています。生活の形態が飛沫感染防止のため、マスクや手洗い、テレワーク等のスタンダード化により大きく変わりました。これからあらゆる分野の産業でIT化への取り組みが進み、時代の様は変化していくのではないのでしょうか。

我々建設業に於いてもi-Construction等への働き方改革への推進がなされていくことと思いますが、研鑽の機会の少ない中小企業への支援等が課題として挙げられるところです。

昨年のニュースで個人的に感動したこととして、小惑星探査機「はやぶさ2」の宇宙からのサンプルリターンの成功です。自分が何かをしたわけではないのですが、同じ日本人として世界に対して日本の技術力を見せることが出来たことは、とても誇らしく思えました。この疫病に対しても建設産業として出来ることを模索していきたいと思っています。そして、ポスト・コロナ時代を見据えて、新しい働き方改革、魅力ある新3K（給料がいい、休暇が取れる、希望が持てる）が実現できるよう推進し、新たな担い手の確保や育成に努めていきたいと思っています。

最後になりますが、我々地域に根付く島根県出雲地区建設業協会青年部会は関係各位と一致団結し、建設に関わる諸課題に取り組んでいく所存でございます。引き続きご理解ご支援のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 歴代部会長

初代部会長	山本恭則	平成9年度
第2代部会長	今岡裕統	平成10～13年度
第3代部会長	別所幸雄	平成14～15年度
第4代部会長	広戸 修	平成16～17年度
第5代部会長	久文秀典	平成18～19年度
第6代部会長	山崎章弘	平成20～21年度
第7代部会長	山口 弥	平成22～23年度
第8代部会長	榎野直宏	平成24～27年度
第9代部会長	山崎育男	平成28～29年度
第10代部会長	内藤正和	平成30～令和元年度



次世代建設就業者育成事業の背景と目的

近年、建設業界では就業者の高齢化が深刻な問題となっています。具体的には、建設業の就業者の約3割は55歳以上となっており、他産業と比べて高齢化が進行しています。建設業が引き続き「地域の守り手」として役割を果たしていくためには、将来の建設業を支える担い手となる技術者および技能者の確保が急務となっています。特に若者や女性の建設業への入職や定着の促進などに重点を置きつつ、働き方改革を更に促進し、魅力ある職場環境を整備することにより、中長期的に人材確保・育成を進めていくことが必要不可欠となっています。

しかしながら、全国的には新規高校卒就職者の就職後3年目までの離職率は常に全産業および製造業を上回っており必要な技術者および技能者の確保ができていない状況です。離職の背景には就職先を決定する過程において、知りたい情報を十分に受けられていないということが挙げられています。これを少しでも解消し、建設業に対する理解を深め職場定着を促進させるため、若年者と建設業界がつながる機会をつくるのが重要となります。

その機会の創出を目的とし、我々青年部では出雲農林高等学校および出雲西高等学校の生徒を対象に現場見学会・意見交換会を実施しました。この事業により、加速化する技術革新への対応（ICT導入等）や、誰もが安心して働き続けられる環境整備（週休2日制への取組等）をはじめとする建設業の人材確保・育成に向けた取り組みをアピールすることができました。

現場見学会・意見交換会の概要

- 学校名 出雲農林高等学校、出雲西高等学校
- 開催日 令和2年10月27日（火）
- 参加者 出雲農林高等学校環境科学科2年生 31名、教員2名
出雲西高等学校1年生 1名、教員1名

9:00～10:30	<p>●現場見学会</p> <p>発注者 国土交通省中国地方整備局 松江国道事務所 受注者 株式会社 中筋組 工事名 湖陵多伎道路 多伎IC改良第3工事 施工場所 島根県出雲市多伎町地内 (内容) ○松江国道事務所挨拶及び事業概要説明 ○ICT施工について (現況地盤測量 UAVによる写真撮影/設計データの作成 3Dビューワの閲覧) ○非破壊試験実演 ○快適トイレの視察</p>
11:00～11:30	<p>●斐伊川放水路分流堰見学</p> <p>(内容) 出雲河川事務所による事業説明及び斐伊川放水路分流堰見学</p>
11:30～12:30	<p>昼食・休憩</p>
12:30～14:30	<p>●建設機械搭乗体験</p> <p>実施場所 斐伊川放水路残土処理場跡地（上塩冶スポーツセンター横） (内容) ○重機搭乗体験 協力会社:株式会社板倉重機 バックホウ 0.7m3級 2台 アーティキュレートダンプ 2台 4tローラー 1台 ○しまね建設産業イメージアップ女子会によるパネル展示・説明</p>
14:30～16:00	<p>●意見交換会</p> <p>実施場所 上塩冶スポーツセンター体育室 (内容) 事前アンケートをもとに質疑応答及び意見交換会(グループワーク)</p>

湖陵多伎道路 多伎IC改良第3工事



松江国道事務所 建設専門官 藤阪様より事業概要説明



株式会社 中筋組 安食様より工事概要説明



ICT施工について

ドローン

トータル
ステーション

現況地盤測量や設計
データの作成説明



ICT建機搭乗体験

ICTを活用した施工が
どのようにおこなわれて
いるのか学びました



施工後のカルバートを
壊すことなく配筋間隔
を見てみます👁️👁️

非破壊試験実演



💡 快適トイレの説明 💡



ご協力くださった皆様と一緒に記念撮影

斐伊川放水路分流堰



出雲河川事務所 阿部様による説明

重機搭乗体験



株式会社板倉重機様による事前説明



新型コロナウイルス感染症対策



最後はみんなで記念撮影



意見交換会



森山部会長 挨拶



建設業にはどんな職種がある?仕事のやりがいは? 様々な質問に代表者達が答えていきました



事前アンケートを基に質疑・応答



グループワーク



各グループで活発な意見交換がおこなわれました



農林高校代表者 挨拶

取材風景



テレビ放送

出雲ケーブルビジョン 令和2年10月29日(木) 放送



新聞掲載

建設興業タイムス 令和2年11月4日(水) 掲載



作業体験をする高校生＝出雲市内

と相談して自分の適正を生かしてほかしてほしい」と話した。

森山部長が「全産業的にコロナの影響はあるが、インフラ整備は欠かせないので、みんなに必要とされる建設業に人を一と歓迎。働き方改革や女性活躍の推進には一連休、日制など迅速改善が進んでいる。職種は大きく現場と事務系に区分されるが、特に女性には上司と相談して自分の適正を生かしてほかしてほしい」と話した。

出雲青年部会 高校生 建設業人職を意見交換、建機搭乗も

出雲地区建設協青年部会(森山昭人部会長)はこのほど、高校生との現場見学・意見交換会を期き、部会員と出雲農林高校環境科学科の2年生ら約50人が参加した。

また、湖陵多伎道路(多伎IC改良第3期工事の現場と伊川放水路分流量を見学。搭乗体験では部会員が建機の操作方法を教えるが、高校生が実際に運転をした。

山陰中央新報 令和2年10月28日(水) 掲載



ICV搭載の最新鋭トラックホーに受ける生徒は、

出雲農林高生 最新鋭建設機に試乗

こんなことまで画面に?

出雲地区建設協青年部会が企画し、国土交通省松江国道事務所が協力した。出雲多伎インターチェンジ近くの現場では、工事着工後の現場で、専用の小型無人機ドローンを使って、空から測量した立体的な設計データを活用して作業を進めるといったICVを活用した作業について説明した。

ICV搭載の最新鋭トラックホーに受ける生徒は、

将来の担い手育成のための山陰道湖陵・多伎道路(湖陵IC改良第3期工事)の建設現場で、最新鋭の情報通信技術「ICV」を搭載した建設機械に試乗した。



工事現場見学会・意見交換会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 今岡竜希

まず初めに、湖陵多伎道路に行きました。道路になる予定の場所でしたが、まだコンクリートなどほとんど入れられておらず、あまり道路という実感がわきませんでした。山を削って整地をしているところで、いくつか機械が置いてありました。この現場の測量はドローンで行っていて、たくさん写真を撮りデータをパソコンに入れることで、立体的に見ることが出来るそうです。現場に置かれていた機械の内部には、モニターがついており、作業を正確に効率よく出来るようになっていました。中でも、ローラーは衛星から位置情報を取得する機械がついており、今どこをどのくらい転圧したかが分かるようになっていました。現場のトイレの紹介も少しされましたが、今の建設業界では現場作業以外も快適になってきていることが分かりました。それ以外にも、現場の方に質問をした時、分かりやすく色々なことを教えていただきました。測量士補でも使えることなので、ありがたかったです。

次に、斐伊川放水路に向かいました。放水路の一部は、車の中からよく見えていたので詳しく学ぶことが出来て良かったです。この放水路は、以前行ったことのある志津見ダムと同じ、浸水被害を減らす目的を持っています。完成したのは割と最近ですが、浸水被害について考えられていたのは昭和時代からと聞き驚きました。今回は放水路の中に入れていただきましたが、とても大きく感じ、建設業の仕事の大きさを再確認することができました。この放水路は過去に12回放水したことがあり、西日本豪雨の際にも利用したそうです。その時に分流した水量などのデータもあり、そのデータから自然災害の危険さを感じました。

次に建設機械の搭乗体験をしました。今回体験したのは大きい工事現場専用のダンプ、大きいバックホウ、そして小さいローラーでした。最初はダンプに乗りました。操作は普通の車と変わりませんが、車高が高く、距離感やタイヤが真っすぐかどうかなど分かりにくかったです。次にバックホウを運転しました。小さいバックホウは何度か乗ったことがありましたが、大きいバックホウは初めてでした。小さいバックホウと比べ動作の反動が大きかったので、慎重に操作しました。ローラーは思っていたよりスピードが出て、落とされそうになりましたが、「言うことが無い」と褒められたので嬉しかったです。

質問をたくさんし、色々を知ることが出来たので、良い現場見学会となりました。

工事現場見学会・意見交換会に参加して

島根県立出雲農林高等学校

環境科学科2年 多久和 暖人



現場見学会に参加しました。ドローンを活用して効率の良い測量をしたり、ICTやCADを使ったりして楽に、かつ素早く仕事が進められるようになっていて、自分が思っていたイメージとギャップがあり驚きました。

また現場で働く人が少しでも快適に過ごすために、きれいな洋式トイレを設置するなど、どんどん進化をさせていっているのが良いと思ったし、これからも、もっといろいろな所が改善されていってほしいです。

斐伊川放水路の現場見学では、なぜ放水路が必要なのかを少しだけ理解することができました。特に運用についてよく分かり、平常時は起伏ゲートが起立しているため、放水路に水が流れないようにになっています。斐伊川が氾濫しそうな時は、起伏ゲートを倒して放水路へ水を分流します。超過洪水時には制水ゲートを閉めて放水路へ流れる水の流量を制御するようになっていました。

今まで大雨が降った時、これは斐伊川が氾濫するかもしれないと何回も思う事があったけど、今回のお話を聞き、氾濫しなかったのは放水路のおかげなんだと分かり、放水路の重要性を確認することができました。

その次は重機に乗りました。大型の車を運転するのは初めてだったので、小回りや駐車をするのは大変だろうなと思いつつ乗っていました。操作は意外と簡単だったけど、アクセルを強く踏むとスピードが結構出るので、アクセルの強弱が難しかったです。少しでも間違えると大きな事故になってしまうので、慎重な運転が求められると思いました。バックホウは両手を使って操作をするので、脳が混乱してしまい、かなり怖かったです。バックホウの運転は知識よりも経験を積んでいくことが大切だと分かりました。

また、意見交換会では自分たちが不安に思っていることや、建設関係で働く場合に知っておく大切なこと、そして進路についてのことなどを聞きました。今回実際に現場で働いておられる人の生の声を聞くことができとても勉強になりました。

進路については、自分が何をしたいのか、後悔がない選択をしたいと思ったし、もっと勉強をして選択できる幅を広げていきたいと思いました。

高校を卒業し就職しても、転職する人も多くいると聞き、仕事が合っていなかったら転職するなどいろいろな方法があると分かりました。

実際の工事現場に行って、体験をすることで分かることもあるし、肌で感じてみないと自分に建設関係の仕事が合っているのかも分からないので、進路を考えていくうえで貴重な経験となりました。

工事現場見学会・意見交換会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 玉木 舞 悠

私は今日の現場見学会について詳しく知りませんでしたので、最初はあまり楽しくなさそうだなと思っていました。私は建設業にあまり興味が無く、造園の事だけしか考えていませんでした。しかし、今回の現場見学会で、全く興味のなかった建設業を少し調べてみようかなと思いはじめました。

湖陵多伎道路の工事現場では、コンクリートの中にある鉄筋を見る機械を見させてもらいました。この機械を見るのは初めてで、あんな小さい機械で本当にコンクリートの中の鉄筋が見られるのかなと思いましたが、機械にはしっかりと鉄筋が映し出されていて、すごい機械だなと思いました。

次に斐伊川放水路を見ました。放水路の分岐点に行くのは初めてでしたが、写真では見たことがあります。それは洪水になった時の写真です。その写真は現場見学会の時に行って見たものより水の量が多く、怖いと感じました。放水路の中に入った時は、あの写真の真ん中に入ったとは思いませんでした。実際の放水路はとても大きく広く、遊べそうなくらいの広さで驚きました。

乗車体験では、バックホウ、ダンプ、ローラーがありましたが、私はどれも全く乗ったことがなくて、楽しさよりも怖さが勝りました。ローラーではアクセルが無いのが一番驚きました。教えてもらった方に「簡単でしょ」と言われた時は苦笑いしてしまいました。実際に運転してみると思っていたよりも難しく、ガタガタして酔いそうになりました。次にダンプに乗りました。ダンプは乗車する時、結構な高さがあつて、運転が大変そうだなと思いました。実際に運転してみると、ダンプは思ったより乗り心地がフワフワしていて、アクセルを踏む時に勢いよく進んで事故をしてしまわないか不安になりました。最後にバックホウに乗りました。運転するのが一番怖そうだなと思っていたのはこのバックホウです。クラスの子がシャベルの部分で勢いよく降ろし、車体を浮かせているのを見てヒヤヒヤしました。怖かったですが、運転するのが一番面白かったのもバックホウでした。レバーを前後左右に動かし、たくさん覚えることがあつて、普段運転している人はすごいなと思いました。

次に女子会の皆様にお話を聞きました。まず女子会というものがあるなんて驚きでした。確かに女性の方は少ないイメージがあるので、このような会があると建設系の仕事に入っておられる女性の方たちの支えになると感じ、とても良い会だなと思いました。女子会の皆様はとてもやさしく話しかけてくださり、なじみやすい空間でした。

意見交換会は、クラスの女子と女子会の皆様としました。まず、現場見学会の中で一番楽しかったことを発表しましたが、みんな乗車体験が良かったと話していて、「やっぱりそうだね」と話していました。その後、女子会についての事を聞きました。最近は昔よりもたくさん女性が入ってきていると言われ、時代は進んでいるんだなと感じました。給料はスキルによると言われ、やはり資格を少しでもたくさんとっておいたほうが良いなと思いました。私は今まで大型免許は仕事に入る前に取るものだと思っていましたが、仕事に入ってから免許を取っても遅くないことを知り驚きました。私は職場で、もし女性が一人だけだったら少し嫌だなと思っていましたが、今回女子会という会を知ることが出来てとても良かったです。

私は今回の現場見学会で、放水路のことや、たくさんの機械の乗車体験など、人生に数回あるかないかのとても貴重な体験をすることができ参加して良かったなと思いました。今はまだ自分の将来について迷っていますが、この貴重な体験をしっかりと今後の進路の参考にしていきたいと思います。

工事現場見学会・意見交換会に参加して

出雲西高等学校

普通科1年 吉川聖隼



私は幼い頃から土木や建設が大好きで、さまざまな工事現場を見てきました。その頃は工事現場で働いている機械を必死に見て、あの機械は何をしているんだろうと考えながら、一日中現場に立っている事もあり、自分もいつかはあの機械に乗るという夢を強く持つようになりました。その後、自分が成長しても機械に乗りたいという夢は消えず、建物・道などの巨大な建造物を建てることの凄さに気づきはじめると、さらに建設が好きになりました。

今回初めて現場見学会に参加させていただき、普段入ることのできない工事現場で貴重な経験ができました。今回行った現場では、コンクリートの検査をしておられました。コンクリートで物を作る時は、コンクリートを打つ前に形を作り、その中にコンクリートを打ちます。そしてコンクリートが固まった後に、特殊な機械を使って検査をすると、コンクリートの中の鉄筋が正確な場所にあるか調べることができます。私はこの機械を初めて見たので驚きました。その後、この現場はどのように工事を進めているのかなど様々な話が聞けました。

次に斐伊川放水路へ見学に行きました。幼い頃、この建設現場に何度も行って工事を見ていたので、この放水路が私の中で一番印象に残っています。今回この斐伊川放水路を訪れ、放水路はとても重要な役割を果たしていると知りました。大雨が降った時に、この放水路ができる前は川が氾濫し、その溢れた水が宍道湖に流れ込むと、松江の一部地域で浸水する事もありました。今では斐伊川が氾濫する前に、放水路を使い神戸川に放流し洪水を防ぎます。

次に工事現場で使う機械に乗せてもらいました。初めて乗った機械もあり感動しました。

これからも建設業界はどんどん進化していくと思うので今後は楽しみです。



しまね建設産業イメージアップ女子会

(株)トーソク

神田 栄 里 子

令和2年10月27日、出雲農林高校生と出雲西高校生を対象とした建設現場見学会・意見交換会に「しまね建設産業イメージアップ女子会」（以下「女子会」という。）メンバーとして初めて参加させて頂きました。

この見学会は、毎年出雲地区建設業協会青年部会主催で行われ、建設現場を案内しながら概要や効果、何のために工事をしているのか等の説明がされ、高校生に建設業を深く理解してもらえる良い機会です。

今回の見学会では山陰道の現場で非破壊調査の技術とICT工事の最新技術を活用した現場管理を学ぶことが出来ました。また、工事現場への女性登用にあたっての現状を、実際に女性技術者から生の声を聞くことが出来、充実した内容であったと感じました。また、建設機械の搭乗体験の合間に、高校生に女子会の活動を紹介する時間を頂きました。建設業で活躍する女性技術者を掲載した「建設産業イメージアップカレンダー」や冊子で紹介しました。実際に島根で働く女性技術者がモデルで写っていますので、ページをめくる毎に輝いて写っている女性たちを見て、建設業に興味を持ってもらえる良い機会であったと思います。また、女子会としても高校生の反応や働くことへの不安や希望などを間近で聞くことが出来、とても貴重な時間となりました。

意見交換会では、女子会のメンバーの一人がパネラーとなり、自身の現場経験や女子会活動のお話をさせて頂きました。また、女子生徒全員との意見交換会では働く上で重要視していること、女性が働くことで不安視する意見などの素直な意見を聞くことが出来、今後の女子会活動の参考となりました。

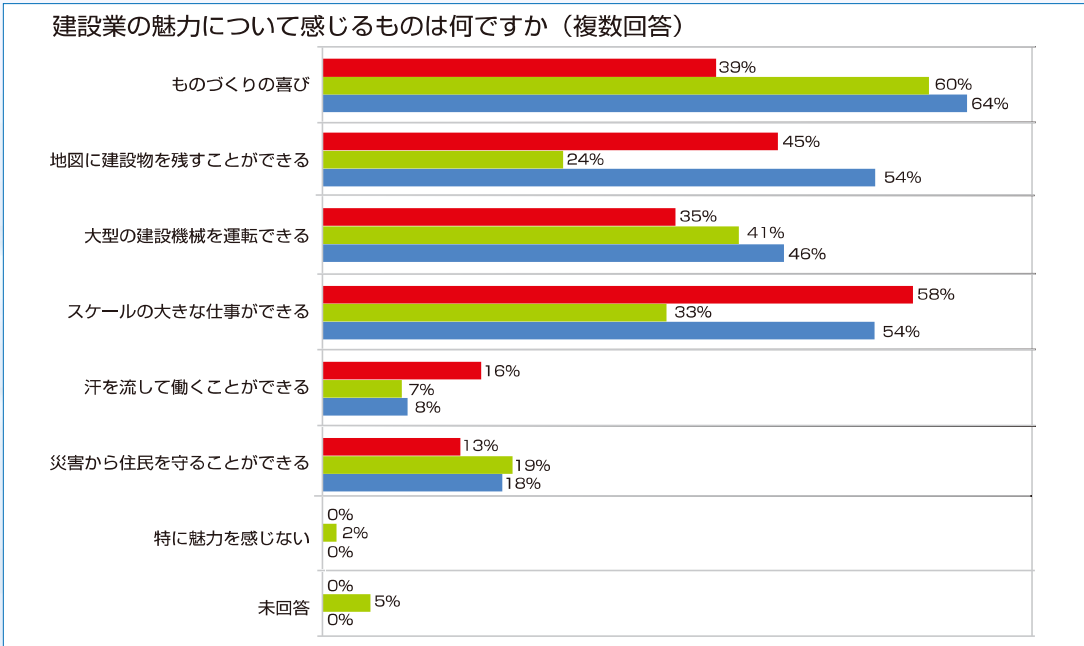
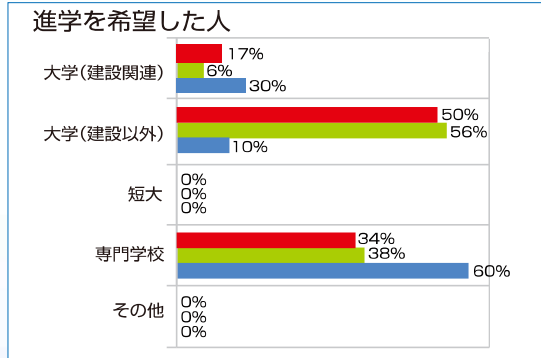
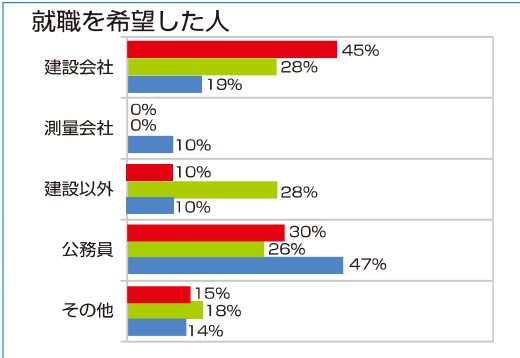
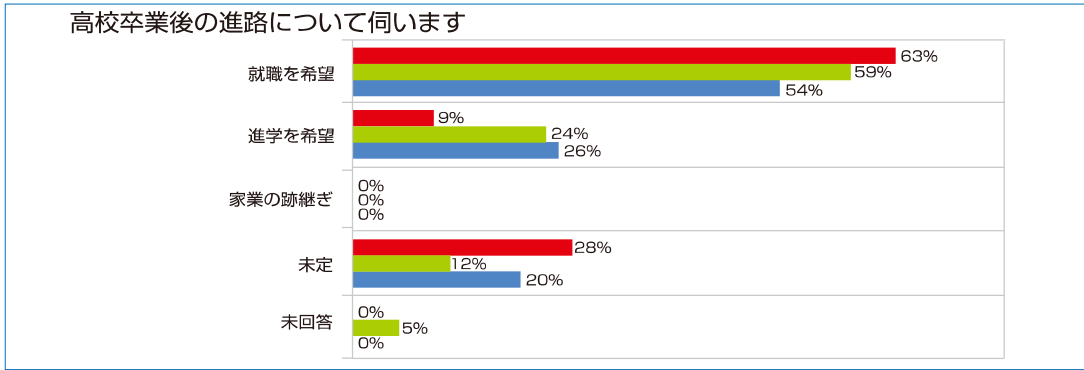
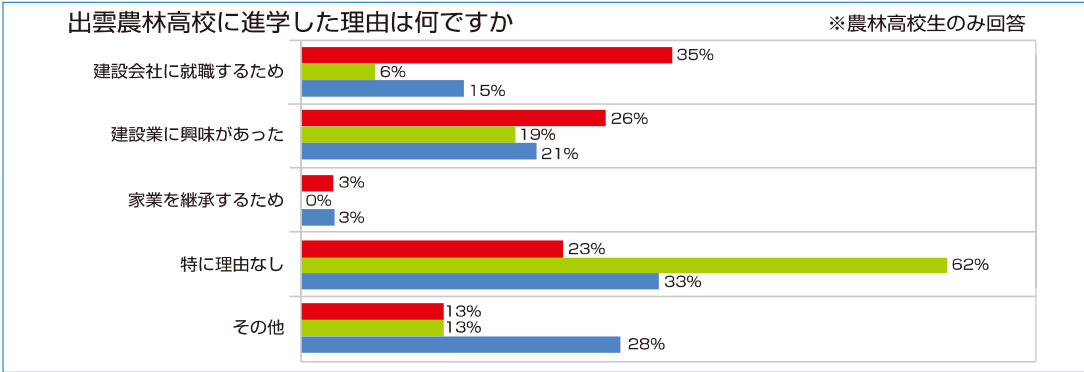
出雲地区建設業協会青年部会の皆様には、このような貴重な機会を頂きましたことに感謝しております。この活動が、今後益々若者担い手確保の充実に活かされ、建設業の未来により明るい光を注がれることを願っています。



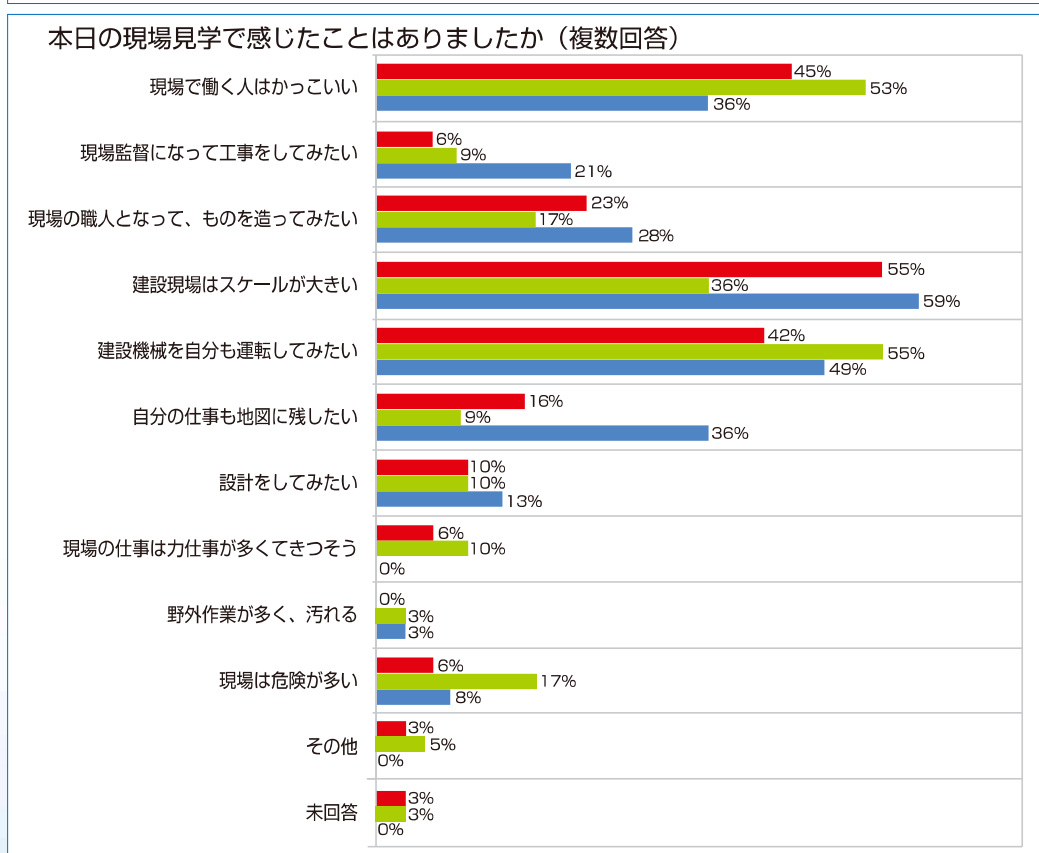
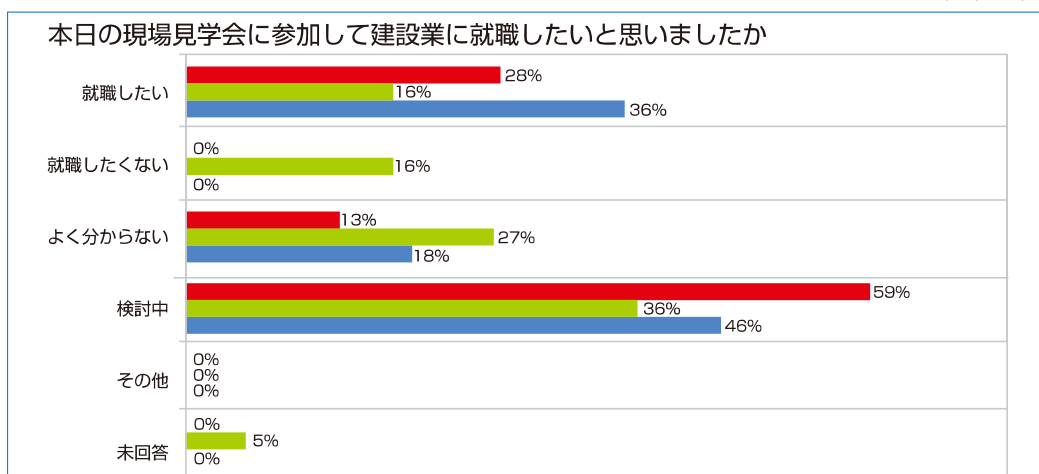
アンケート結果

実施日／対象者

- …令和2年10月27日／見学会参加生徒 32名(出雲農林高校31名、出雲西高校1名)
- …令和元年10月30日／見学会参加生徒 58名(出雲農林高校32名、出雲北陵高校23名、出雲西高校3名)
- …平成30年10月30日／見学会参加生徒 39名(出雲農林高校39名)



■…令和2年度
 ■…令和元年度
 ■…平成30年度



アンケート結果(まとめ)

今回の事業では、前回まで参加頂いてる出雲農林高校生31名に加え、出雲西高校生1名の生徒の皆さんに参加して頂きました。

建設業の魅力はどうすれば伝わるのかを考え、普段立ち入ることのできない現場の見学および建設機械の搭乗体験などをしていただきました。

また、上記のアンケート結果において、「本日の現場見学会に参加して建設業に就職したいと思った、もしくは検討中」と回答された方が合計で87%もあり多くの生徒に建設業の魅力を伝えることができました。

近年若年労働者の就職促進が建設業界の課題となっています。この事業を通して一人でも多くの学生が興味、関心を持っていただけるよう事業を継続したいと思っております。



次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を実施して感じること(考察)

経営研究委員会 委員長

(有)ナギラ建工 柳 樂 則 昭

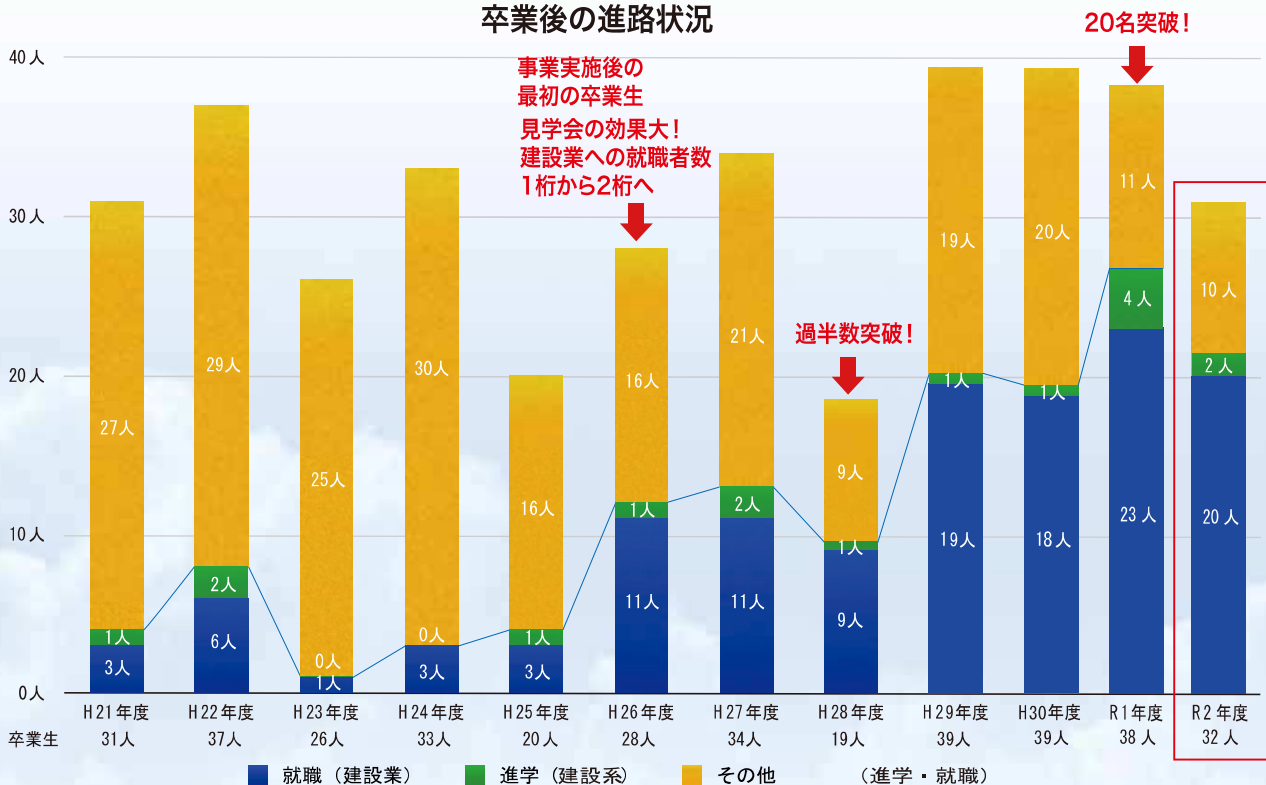
次世代建設就業者育成事業(現場見学会)は、平成25年度の実施から今年で8回目となりました。このたび高校卒業後の進路状況について本事業の開催前後でどのように変化があったのか調査を行いました。

進学、就職先として建設業関連に進まれた方の割合は、本事業が開催される前と比較し、飛躍的に増加してきております。また、現場見学会への参加を希望された私立高校生も令和元年度から参加いただいておりますが、その中からも卒業後に建設業に従事される予定の生徒がいらっしゃるという嬉しい報告をいただいております。それは、建設業の3K「きつい、汚い、危険」といった悪いイメージが、本事業を通して建設現場のICT化による安全かつ効率化された作業や、女性が働きやすい作業環境が整ってきていることを生徒の皆様が知るにより建設業界が良いイメージに変化し、また、ものづくりへのやりがいを肌で感じることで今まで以上に建設業への興味や魅力を持っていただけた成果だと考えます。

今日、建設労働者の高齢化や若手技術者・技能者不足は建設業界にとって深刻な問題となっております。

本事業を引き続き実施していくことにより、少しでも多くの若者が建設業界に興味・関心を持っていただけるよう活動を行い、一人でも多くの人職者が増えるよう建設業の役割と魅力を伝えていきたいと考えています。

卒業後の進路状況



島根県立出雲農林高校環境科学科 進路決定状況より



出雲農林高校(環境科学科) 中学生一日体験入学支援事業に参加して

経営研究委員会 副委員長

(株)中筋組 中筋元尚

令和2年8月21日(金)に次世代建設就業者育成事業の一環として、出雲市内外の中学生を対象とした島根県立出雲農林高等学校主催の一日体験入学に、出雲地区建設業協会青年部会として参加しました。

当日は天候に恵まれ、午前の部2回と午後の部2回で合計60名の中学生が参加し、バックホウの搭乗体験を中心に、建設現場の作業風景のパネル見学や環境科学科の生徒達の活動内容を収めたDVDの視聴をして頂きました。

バックホウの搭乗体験では、生徒達は青年部会員から操作方法の説明を受けて操縦したのですが、搭乗前には緊張していた顔が搭乗後には笑顔に変わったことは印象的でした。またDVD視聴やパネル展示箇所では青年部会員が生徒達とコミュニケーションを図りながら質問を受け答えする場面もあり、大変有意義な時間を過ごす事ができました。

その時に、何人かの生徒から建設業に対して「きつい、汚い、危険(3K)」といったイメージを少なからず持っていると聞きました。建設業界では若手の入職者が減少傾向を辿り、慢性的な人手不足と高齢化が問題視されております。業界全体で「新3K(給料、休暇、希望)」へのイメージ転換に取り組んでおりますが、一日体験に参加した生徒は建設業に対して造詣が深いと思われそうですが、その生徒達から悪いイメージを払拭することができていないことも改めて実感しました。

建設業界は、ICTを推進し、女性が働きやすい環境作りが重視され、週休2日制の実現に向けて動いております。ですが、業界の外からではその動きが見えにくいかもしれません。建設業界は旧態依然としている、と思われているかもしれません。

青年部会の活動は、建設業の魅力を発信できる貴重な機会であると同時に、今後の建設業を担う若年層を発掘する責務があると痛感しました。

近い将来、建設業への就職を希望する学生が増える事を期待しております。



地域貢献事業報告



第21回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦 ～2020道路清掃～

地域貢献委員会 委員

ヒカワ工業(株) 菖 蒲 修

出雲地区建設業協会青年部会の事業といたしまして、令和2年7月31日に出雲市駅周辺のゴミ拾いを出雲県土整備事務所の職員様21名、会員35名、事務局2名、協力会社3名の合計61名で『ふるさとまるごとクリーンアップ作戦』を実施しました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、マスク着用により例年以上に、暑さが堪えました。

出雲市駅周辺は何気なく通っている道路ですが、目を凝らして見てみると歩道の隅や植樹帯の中に多くのゴミがありました。拾ったゴミは多種多様で、たばこの吸い殻、菓子袋、空き缶、空き瓶、ペットボトル、大きなプラスチックもあり、出雲県土の職員の方々もゴミの量に驚いておられました。この事業でここ数年、同じ場所を清掃しておりますが、毎年同じ位のゴミの量がある事にも驚きです。

出雲市駅周辺だけでも、これだけ沢山のゴミがあり、出雲市全体を見れば想像もつかないようなゴミの量があると思います。特に駅周辺は、観光客の方はもとより、学生の通学路等にもなっている為、一人一人がゴミを捨てない事と見つけたら拾う事を心掛けて欲しいものです。

そして今後も青年部が、この事業を継続し、地域に貢献できればと思います。きれいな街、出雲を守っていきたいものです。今回参加された方々、大変お疲れ様でした。



会員交流事業報告



意見交換会2020

会員交流委員会 委員

(株)フクダ 務 中 直 也

令和2年11月17日(火)出雲建設会館にて、青年部会会員交流委員会が担当する「意見交換会2020」を開催いたしました。

研修会では、出雲県土整備事務所より技術専門監 福島昇様、土木工務部長 岡透様、東部県民センター出雲事務所 建築課長 山本大輔様をお迎えし、ご講演いただきました。

福島技術専門監には「施工管理について」と題し、適正な施工管理を行うために心がけるべきことについてご講演いただきました。仕様書の内容をしっかりと把握することは施工管理者として当然ではありますが、協議を重ねるとお互いの解釈が異なっていることも多いとのことでした。我々施工業者が確かな品質で工事や業務を納めるために、日々行うべきこと、どのような意識を持つのか、改めて自問するととても良い機会となりました。

岡土木工務部長には「島根県の新たな道づくりについて」と題し、今後の島根県内における道づくりのテーマと施策についてご講演いただきました。山陰道の早期開通に向けた取り組みや、住みよく魅力あふれる地域づくりとしての道路整備の重要性を説かれ、道づくりがもたらす様々な恩恵について理解を深めることができました。

山本建築課長には「出雲地区における県の建築工事等の近況について」と題し、県建築関連工事予算の近況や、島根県公共建築品質確保推進協議会についてご講演いただきました。普段は施工側が意識することのない、長寿命化予算の組み方や改修による効果・費用回収までを考えた経営方針など、発注されるまでの舞台裏を知る貴重な機会となりました。

研修会終了後は会場を移し、意見交換会を開催しました。出雲県土整備事務所からは、ベテランから若手の方も含め10名の参加をいただき、発注者・受注者として様々な視点から意見交換を行いました。また仕事についてのみならずプライベートなお話にも花が咲き、前半の研修会・後半の意見交換会を通して受発注者間の親睦をより一層深めることができました。



卒業にあたり



(株)今岡興産 日野 肇

平成30年度に入会して以来3年間在籍させていただきました。ついこの間新入会員の紹介文を書いていたように思っていたのですが、あっという間に卒業となりました。在籍期間は短かったですが、入会以来地域貢献委員会に所属させていただき私も携わった『ふるさとまるごとクリーンアップ作戦』、『土木の日記念イベント』等いろいろな事業に参加させていただき多くの出会いと関わりと、とても貴重な経験となったことは私の大切な財産となりました。卒業して終わりではなく、今後この経験を活かして建設業界へ貢献していくことが私の務めだと思っています。

最後になりましたが3年間青年部会にて活動させていただいたことに、そして関わっていただいた皆様に厚く御礼申し上げます。



新入会員紹介



今岡工業(株) 神田 泰弘

今年度より出雲地区建設業協会青年部会に入会し、会員交流委員会で活動させていただいております、今岡工業株式会社の神田泰弘と申します。

地元の高校を卒業後、弊社へ入社し建設業に携わるようになって26年目を迎えております。青年部会へ入会するのに不安もありましたが、ボランティア活動や意見交換会等で諸先輩方と共に活動することで、先輩方に優しく接していただき、親睦が深まり、青年部会の団結の素晴らしさを実感させて頂き感謝致しております。

今後も様々な活動を通じ、地域に貢献し建設業の発展の為に努力したいと思います。まだまだ至らない点等多々あるかと思いますが、御指導のほどよろしくお願い致します。



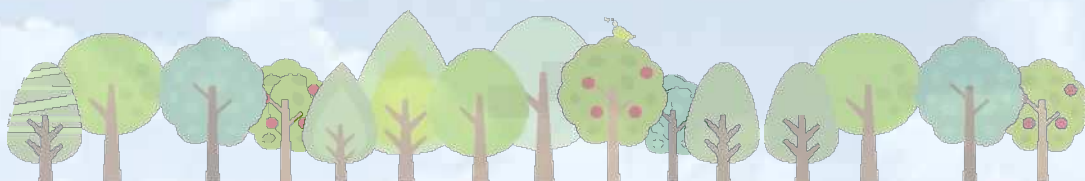
(株)トガノ建設 嘉藤 雅士

今年度から出雲地区建設業協会青年部会に入会させていただきました株式会社トガノ建設の嘉藤雅士と申します。

大学卒業後10年間異業種で勤務したのち、平成31年4月より縁あって株式会社トガノ建設に入社いたしました。入社後2年経ちましたが、前職が建設業とはまったくの畑違いの業種であったため、知識や経験がほとんどなく、まだまだ建設業に対して右も左もわからない状況にあります。青年部会の入会に際しては、「知識の集積」と「ネットワークの構築」を自分の中でテーマに掲げ、様々な経験や多くの人と関わることで建設業に身を置く自分の成長にしたいと考えています。

建設業界は人材の確保や働き方の改善など様々な課題を抱えていると感じております。その課題を解決するためにもこの青年部会で得た知識をもとにして会社の改善につなげ、また青年部会の様々な事業を通じて、建設業の魅力アップに少しでも貢献できるように努力をしていきたいと思っております。

これからも多くの方と関わりながら活動していきたいと思っておりますので、ご指導賜りますようお願いいたします。





山口建設(株) 山口 匡 史

今年度から出雲地区建設業協会青年部に入会させていただきました山口建設株式会社の山口匡史と申します。大学を卒業後、建設業とは全く異なる仕事をしていましたが、縁があり山口建設株式会社に入社しました。建設業の知識も経験も浅い私にとって、青年部への入会は不安が大きいものでした。ですが、活動に参加させていただくなかで、青年部の皆様が非常に気さくに接してくださり、今では青年部会に入会してよかったと思います。

近年、建設業界では人材不足が課題とされており、なかでも特に問題とされているのが若者離れです。青年部会では、農林高校の中学生一日体験入学支援事業や高校生との現場見学会を通して、建設業に興味、関心をもってもらう活動をしています。私も様々な活動に参加し、建設業のイメージアップ、魅力発信に微力ながら貢献できればと思います。

まだまだ至らぬ点もあるかと思いますが、精一杯頑張りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



(株)フクダ 務 中 直 也

今年度より出雲地区建設業協会青年部会に入会させていただき、会員交流委員会で活動しております、株式会社フクダの務中直也と申します。

私は大学卒業後、広島県の金融機関に数年間勤務し、平成29年より弊社に所属しております。元々営業職ではありましたが異業種からの転職ということで、仕事内容ややり方の違いに当初はとても驚きました。しかし青年部の先輩方を初め、各社個々人が業界を良くしたいという熱い思いを持っておられ、次第に私もその一人になっていました。

現在建設業界は待ったなしの人手不足に直面しており、働きやすく働きがいのある業種へと変化していくことが急務となっています。近年増加している自然災害への対応、地域のインフラ整備等の担い手として、これまでもこれからも重要な産業であり続けるのが建設業です。技術革新や働き方改革により日々自動化や省力化が進んでいますが、技術者をはじめとした人材の重要性は依然変わることなく、継続的な人手の確保は業界全体の課題と言えます。今後は青年部会の一員として自分にできることを常に考え続け、魅力ある業界づくりに向け精一杯取り組みたいと考えておりますので、よろしくご指導願います。



編集後記

激動の2020年、世界中の経済活動や社会生活をほんの数か月で一変させるような未曾有の緊急事態がかつてあったでしょうか？

2020年7月、日本で開催される夏季オリンピックとしては56年ぶりとなる、東京オリンピック・パラリンピックが盛大に開催されるはずでした。日本国民にとって2005年の『愛・地球博』以来の大規模国際イベントという事もあり、心待ちにしていた方もたくさんいらっしゃったと思います。しかしながら2019年12月に新型コロナウイルスの感染者が中国湖北省武漢市で初めて確認され、当初は対岸の火事程度にしか思っておりませんでした。そこからは目を追うごとにその感染拡大は深刻さを増し、日本では4月に緊急事態宣言が発令されるまでにいたりしました。その後、夏を過ぎても収束するきざしが見えないまま冬を迎え、今では第3波が到来していると言われております。

このような情勢の中、当青年部会では、各事業そして各委員会の活動を中止または、縮小して行わざるを得なくなってしまったものもあり、大変残念に思っております。

建設業界においてもその影響は甚大で、経営に深刻なダメージを与えております。またコロナ禍による経営環境の悪化が、来年度以降どのように変化していくのか今はまだ想像できませんが、少し前から「ウィズ コロナ時代」という言葉が使われるようになり、今後はこのウイルスとの共存を視野に入れた経済活動や社会生活を見据え、この状況に耐え、生き残っていく術を考え、新しい世の中に対応することで、新しい価値を生み出していくことを全員で考えていかなければならないと思っております。

この編集後記を書いている時点で、初感染者が確認されてからおよそ1年の歳月が流れました。思い返してみると2020年は恐らくみなさんにとって、長かったような短かったような不思議な感覚の1年だったのではないのでしょうか。12月に入りイギリス当局が使用認可を与えた、世界で初めての新型コロナウイルスのワクチン接種が開始されました。日本では2021年6月末までに6000万人分のワクチン供給を受ける予定となっております。2003年に大流行したSARSウイルスと比べ、感染力も感染規模も桁違いの新型コロナウイルスですが、ワクチンが世界中に行き渡り、1日でも早く終息へ向かうことを切に願っております。

最後になりますが、本誌を発行するにあたりご寄稿またご協力いただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

総務広報委員会 委員 江角 洋介

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)
青年部会の活動についてもご案内しています。是非ご覧下さい。